

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	くらしと社会				
担当者氏名	井上 敏孝				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・春期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 専門基礎-1 国際社会に貢献できる人材育成 ◎ 専門基礎-2 豊かな人間性の醸成 ○ 専門基礎-3 コミュニケーション能力の向上 ○ 専門基礎-4 発達の深い理解 ○ 専門基礎-5 指導・保育の専門性 				

《授業の概要》

我が国が抱える諸問題や身近な生活諸課題について、幅広い資料の分析・批判等の作業を通して主体的かつ協調的に学ぶ機会とする。さらには社会認識を問うテーマの分析にも積極的に挑戦してもらいたい。本講座を通して獲得した技術は、小学校社会の授業実践並びに教材開発時に生かすことができよう。

《テキスト》

文部科学省検定済み教科書 小学社会 全学年上・下

《参考図書》

適宜レジュメ・資料を配布する。
参考文献等はその都度紹介する。

《授業の到達目標》

本講義では、社会科=暗記科目というイメージを払しょくし、日常生活における諸改題や身近なテーマに対して、学生が主体的かつ意欲的に取り組む姿勢を育むことを目的とする。また日常の暮らしの中で感じた「問い」を構成し、社会的事象についての「社会的事象の見方・考え方」を働かせることをねらいとする。

《授業時間外学習》

日頃から新聞やニュースに目を通しておくこと。
授業中に出した課題に対して、事前に調べ学習やフィールドワークが必要となることがある。

《成績評価の方法》

授業への参加度・貢献度（30%）に発表（20%）とレポート（50%）を加えて総合的に評価する。

《備考（教員経験の有無）》

随時発問や活動を加えつつ授業を進めていくので、積極的な姿勢での参加が望ましい。
5回以上欠席した場合は、レポートを受け付けない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ガイダンス	本授業の概要と授業の進め方、評価方法等についてガイダンスを行う。
2	“なぜ”を主発問とした社会授業 初級編①	日常生活のなかで感じる素朴な疑問を“なぜ・・・”という「問い」の形に構成する。
3	“なぜ”を主発問とした社会授業 初級編②	設定した「問い」に対して、“たぶんこうだろう”という仮説を設定する。
4	“なぜ”を主発問とした社会授業 初級編③	「問い」に対する仮説を踏まえて、実際に多様な資料を使い検証、「問い」に対する答えを見つけ出す。
5	フィールドワーク準備	社会的事象の特色や意味を考え、解決する手法としてフィールドワークを実施する。本時では、フィールドワークを行う上での留意点や事前準備について共有する。
6	フィールドワーク実践	社会的事象の特色や意味を考え、解決する手法としてフィールドワークを実施する。本時では、事前準備を踏まえて、フィールドワークを実践する。
7	“なぜ”を主発問とした社会授業 中級編①	地理的・歴史的・公民的分野に関する疑問を“なぜ・・・”という「問い」の形に構成する。
8	“なぜ”を主発問とした社会授業 中級編②	設定した「問い」に対して、“たぶんこうだろう”という仮説を設定する。
9	“なぜ”を主発問とした社会授業 中級編③	「問い」に対する仮説を踏まえて、実際に多様な資料を使い検証、「問い」に対する答えを見つけ出す。
10	聞き取り調査の準備	社会的事象の特色や意味を考え、解決する手法として聞き取り調査を実施する。本時では、聞き取り調査を行う上での留意点や事前準備について共有する。
11	聞き取り調査の実施	社会的事象の特色や意味を考え、解決する手法として聞き取り調査を実施する。本時では、事前準備を踏まえて、聞き取り調査を実践する。
12	“なぜ”を主発問とした社会授業 上級編①	に関する「問い」を疑問を“なぜ・・・”という「問い」の形に構成する。
13	“なぜ”を主発問とした社会授業 上級編②	設定した「問い」に対して、“たぶんこうだろう”という仮説を設定する。
14	“なぜ”を主発問とした社会授業 上級編③	「問い」に対する仮説を踏まえて、実際に多様な史・資料を活用し他者と協調して検証、「問い」に対する答えを見つけ、発表を行う。
15	まとめ	本授業で学んだ内容を総括するとともに、レポート課題について発表する。